

◎熱帯林業講座◎

〔参考文献〕 1) 鶴見和恒 (2003) ベトナムにおける土壌管理とクローン植林に関する研究, 熱帯林業, 57, 34-41. 2) 古越隆信 (2003) 「ハイブリッド・アカシア」の育種とその利用, 熱帯林業, 58, 8-16. 3) 近藤禎二 (2004) 海外の林木育種事情 (4) —マレーシア—, 林木の育種, 212, 47-49. 4) 白石 進, 富田啓治 (2004) アカシア属植物由来の新規 DNA 配列, 特許願 P04-0321. 5) 鶴見和恒ら (2002) 熱帯早生樹のクローン化技術の開発, 熱帯林育成利用技術研究成果報告書, 88-109, 熱帯林再生技術研究組合編. 6) Shiraishi, S. and Widayatmoko AYPBC, An efficient and reliable DNA typing of cultivars and plus trees in *Acacia mangium* using multiplex-PCR of SCAR markers. (投稿中) 7) 白石進 (1996) クローナルフォレストリー—21世紀の新たなクローン林業をめざして—, pp. 21-25, 林木育種協会. 8) 白石 進ら (2004) *Eucalyptus globulus* 育種における検定林レス次代検定およびクローン管理のための MuPS システムの開発, 第 115 回林学会大会講演要旨集, 214.

図書紹介

◎マングローブの管理と保全—現在と未来 (Marta Vannucci 編集, 2004 : Mangrove Management and Conservation : Present and Future-United Nations University Press. Tokyo. 324 pp. 国連大学から 21.95 \$ で購入可能)

2000年3月に国連大学 (UNU), ユネスコの人と生物圏計画 (UNESCO-MAB), 沖縄に本部のある国際マングローブ生態系協会 (ISME) が, 沖縄県那覇市でマングローブに関するワークショップを開催した。その時の講演を, 国連大学が本として出版したいとのことで, 講演者に, この本に合わせて原稿を書き直して戴いた。原稿の校正と編集はマングローブを調査・研究している仲間の中で “Mother of Mangroves” などの愛称で呼んでいる Marta Vannucci 博士にお願いした。当初はワークショップ開催 1 年後の 2001 年 3 月に出版の予定であったが, 最終的には 4 年間もかかって出版された。

本の構成としてはマングローブ生態系の構造と機能, 機能の管理, 利用と政策から成っており, タイ, 中国, インドネシア, インド, パキスタンなどの 19 のケーススタディー等が紹介されている。この本の特徴としては, マングローブを植物としてではなくて, 生態系ととらえ, 社会経済学的なマングローブ研究, マングローブ生態系での海生生物の役割, マングローブ林の地下部の炭素蓄積量などが易しく記述されている。したがって, これからマングローブに関する調査や研究を指向する人にとっては, マングローブに関する研究の現状を概観する意味でも, お奨めしたい本である。また, それぞれのケーススタディーはそれで完結しているので, 読者は全ページを読む必要はなく, それぞれの興味のあるテーマについて目を通すだけでよいであろう。

なお, 巻末には, これからのマングローブ調査や研究への提言もまとめられており, マングローブを取り巻く今日的な問題点, 今後取り組まなければいけない問題点や調査・研究の方向性も列挙されている。したがって, それらを参考にすると, これからマングローブの調査・研究に取り組もうとされる人達の方向性も見出すことができるかもしれない。

(馬場繁幸)